

戸沢村が“国民健康保険（国保）発祥の地”と語り継がれているのはなぜ？

1. 公的医療保険がないと…（公的とは法律に基づくもので強制力あり。）

自 分や家 族	医療機関（お医者さん、歯医者さん）・薬局等
1 病気や虫歯になったとき。 ケガしたとき。	1 医療（診察、検査、手術など）を行う。 薬を出す、など
2 全 額 支 払	2 医療や薬などにかかったお金（医療費等） を請求。

2. 困 る こ と……………

請求されたお金が多いと支払いが大変！！

医療機関に行けない！ガマンする。



病気が重くって亡くなって
しまうことも・・・

3.今から約80年前の戸沢村角川地区(その当時は角川村と呼ばれていた)は……

- ・村内には診療所も歯医者も薬局もなかった。→薬売りから「薬」を買うしかない。
- ・交通の便が悪い。(バスも通っていない、自家用車を持っている家も少ない)
- ・自然災害(土砂崩れ、冷害など)も多い。
- ・お米の売り値が安すぎることもあった。→収入が少なくなる。→生活に困る

- ・病気になってもお医者さんから診てもらうことができない!!
- ・病気になったら、薬と伝えられていた「木炭の粉末」や「ウド(山菜)の根」などを飲ませた。
- ・お米は重病にならないと食べられない。(お米が主な収入源であったため)
- ・冷害などでお米が取れないときは、ワラビの根や大根の葉を食べた。

- ・大人は、毎日が空腹状態の中でも農作業をしなければならなかった。
- ・子ども達は、お腹が空きすぎて泣き叫ぶ……
- ・子どもの病気が治らないときは……
お母さんが子どもを背負い、お父さんは米俵(医療費を払うお金の代わり)を担いで古口駅まで歩き、そこから汽車で新庄のお医者さんに連れていくことになるが、その途中で子どもが亡くなることもあった。

山形県や最上郡内で「最も貧しい町村」の一つが角川村であった。



不便で生活も苦しい
えに医者にもかかれ
ない、こんな角川には居
たくない!! 東京に出
ていく。

出て行きたいけど“お
金がない”ので、仕方
ないが角川に残るしか
ない。



4.そこで村長や議員、村民達で話し合いをしました……

住民が医療を受けられない町村は他にもあり、政府は会社員などが入っている医療保険（健康保険など）とは別に、新たな医療保険制度（国民健康保険）を作ることを考えているようだ。

この状態をなんとかするには、
「村立診療所」の設置と「国民健康保険（国保）制度」を取り入れるしかない！！



何もせずに村民が亡くなっていくのを見たくない！**お金を出し合い、少ない負担で医者にかかれる保健組合を創るの**で理解してほしい！**みんなで加入しよう！！**

医者にかかれるのはうれしいが、生活が苦しいのに、新たな支出（保険料）が出るのは・・・

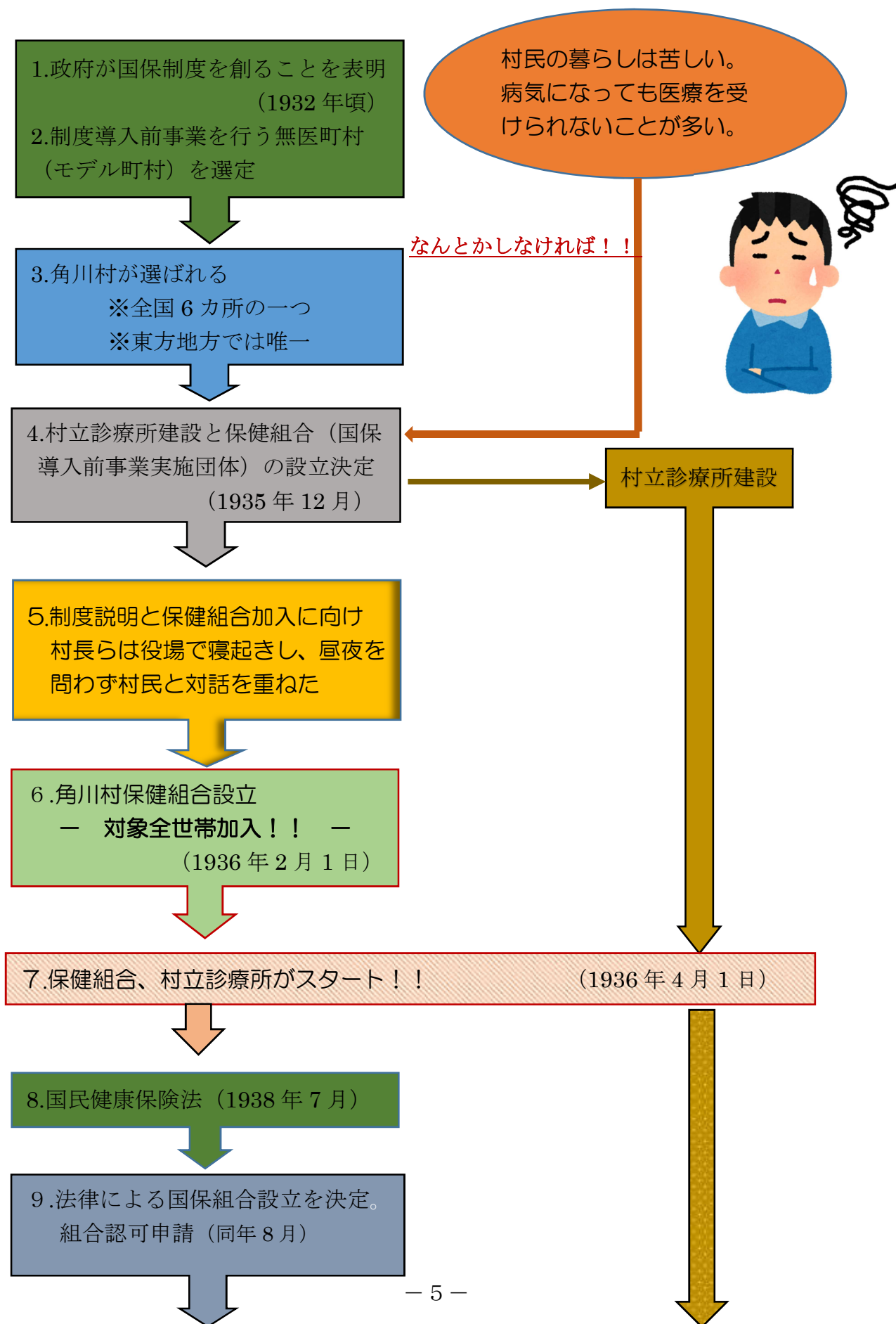


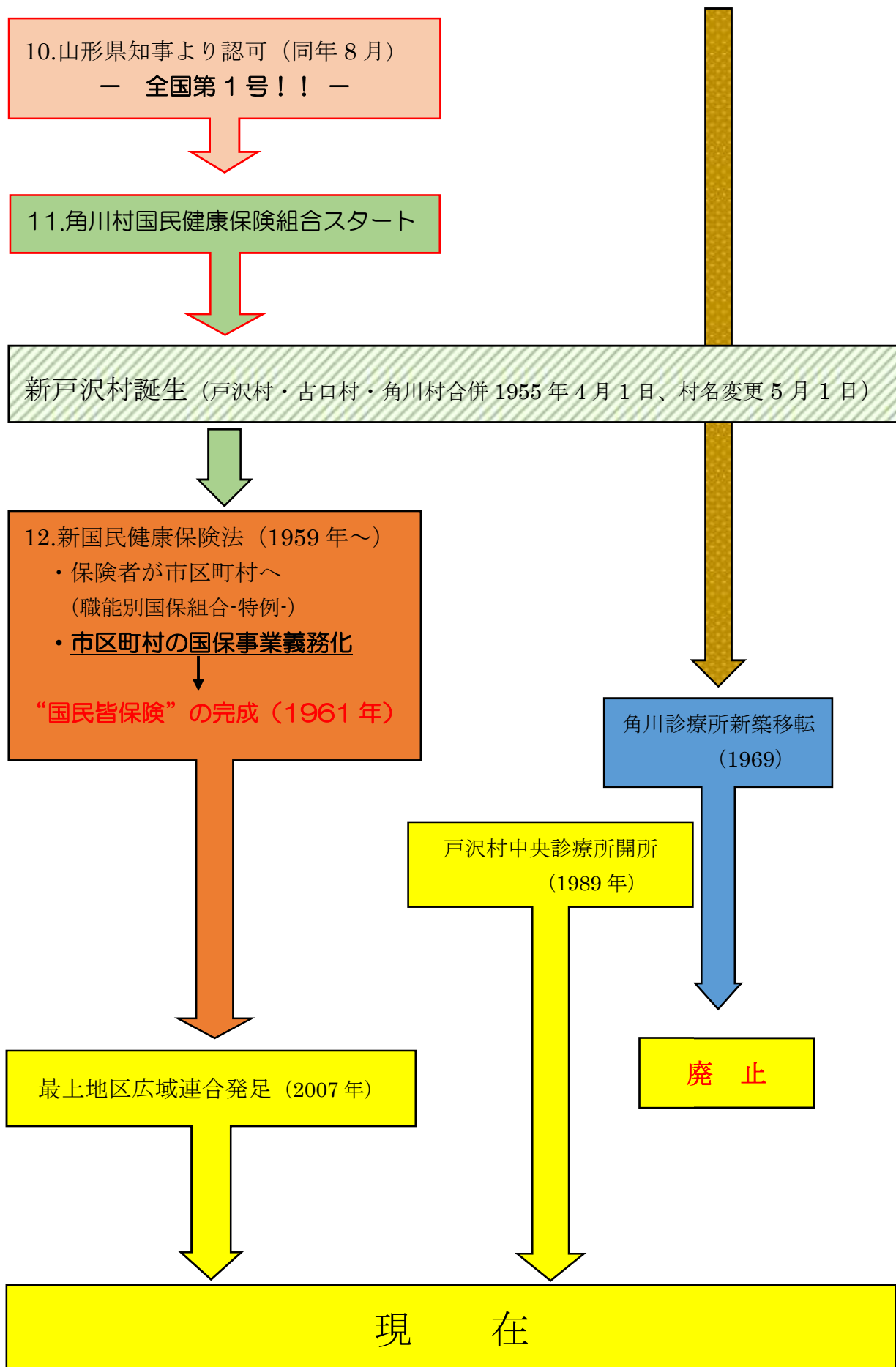
医療費はどのくらいかかるものか？
保険料はどのくらい集めると足りるのか？など色々と悩むことがある！！

保険料は、生活に余裕のある家庭は多く、そうでない家庭は少なくすることにして、15区分としよう！



5.角川村が国保制度を取り入れるまで主な流れとその後…………





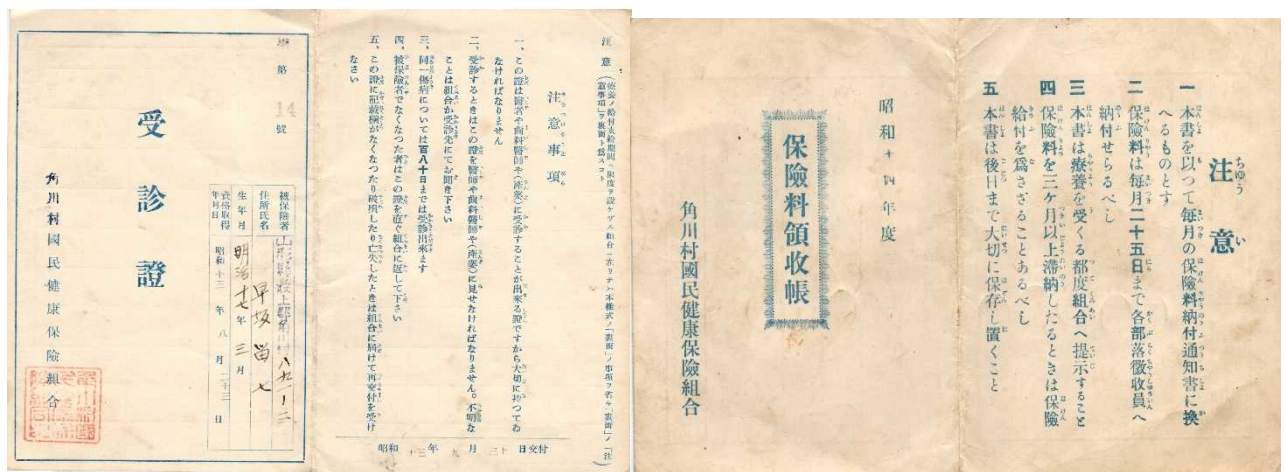
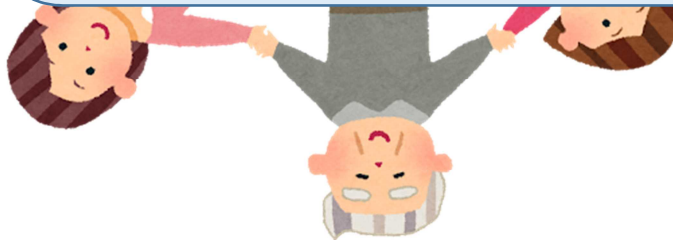
6.戸沢村が国保発祥の地として語り継がれているのは・・・



旧角川村が国保組合認可全国第1号となったこともあるが、“村民のため”とは言え“生活が苦しい中でも新たな負担を求める”という相反することをやりとげなければならなかったことであり、そのために大変な苦労もあったと思うが、村民と村長らが対話を重ね、合意形成を果たしたことである。このことが全世帯の組合加入につながった！！



「相互扶助（相扶共済）」・・・みんなで支え助け合う・・・の考えでつくられた国保制度は、農村でも病気になったら医者に行くという考え方になり、また国民皆保険（日本に住む人はいずれかの公的医療保険に加入する）の実現につながったことから、誰もが安心して医療を受けられるようになったことはとてもすごいことです。



7.参考までに国保制度とは……………

少ないお金（個人負担）で医療を受けられたり、薬を出してもらえるようにするためには……



医療費にかかるお金の内、個人負担金や政府からの補助金などを除いた分のお金（保険でまかなう分の保険料）を集める必要がある。



助け合い（相互扶助）の考えにより、国保加入者でお金（保険料）を出し合う。
（加入対象者）

○個人または家族で農業や商店など営んでいる方

○会社などをやめた人 など

※国保以外の医療保険加入者から扶養されている方のほか、平成 20（2008）年からは75歳を超えた方も対象外

国保の仕組みは（令和元年度における戸沢村の場合）

自分・家族 （国保加入者）	最上地区広域連合 （＊1 保険者）	医療機関・薬局等	山形県国民健康保険 団体連合会（＊2）
1.保険料を納める	1.保険料額を決め 納付書を送る		
2.病気や虫歯になる		2.医療（診察・検査 手術など）を行う 薬を出す	
3.個人負担金を払う		3.医療費等を請求	3.請求書と明細書を 受取る ↓ 4.明細書の確認と支払 金額の確定 ↓ 5.確定金額を請求・受領
	5.確定金額の支払い		6.確定金額の支払
		6.受 領	

説 明

＊1 保険者とは国保を運営する者をいい、最上地区広域連合は真室川町、金山町、鮭川村及び戸沢村が共同して運営するために作ったものです。

＊2 山形県国民健康保険団体連合会は保険者と契約を結び、事務の一部を保険者に代わって行う団体です。

8. 終 い に…………

10 年ほど前に、昔の角川村について勉強した当時の中学生の話しを紹介してお終いにします。

この中学生は角川に生まれ育ちましたが、「角川には大きな店もない、子ども少ない、角川がどこにあるのかも知らないと言われ、恥ずかしい思いをしました。好きではありませんでした。でも、昔は貧しく医者に診てもらう前に子どもが亡くなったり、食べる物もなく死ぬ人もいたが、そんな中でも角川を見捨てず、“今は大変でも、いつかは普通の生活ができる日が来る”と、不便な生活に立ち向かい、苦しい時代を乗り越えた人達がいたことを知り、だからこそ今の角川があるのだ、と思うようになってからは角川のことが恥ずかしくなくなり、自分のふるさととして誇りを持つようになった」と感想文を書いています。

困難に負けない強い気持ちとやれることをやっていくことが大事であることを改めて気づかされるものとなりました。



[illegible]

注意

- 一 本書を以て毎月毎月の保険料納付通知書に換へるものとす
- 二 保険料は毎月二十五日まで各部落徴収員へ納付せらるべし
- 三 本書は療養を受ける都度組合へ提示すること
- 四 保険料を三ヶ月以上滞納したるときは保険給付を爲さざることあるべし
- 五 本書は後日まで大切に保存し置くこと

昭和十四年度

保険料領収帳

角川村國民健康保險組合

九月分	昭和十四年三月三日領収
十月分	昭和十四年三月十日領収
十一月分	昭和十四年三月十七日領収
十二月分	昭和十四年三月二十四日領収
一月分	昭和十四年三月三十一日領収
二月分	昭和十四年四月七日領収
三月分	昭和十四年四月十四日領収

組合員	早坂留七
一金四拾錢	五級
一ヶ月保険料	
四月分	昭和十四年四月十一日領収
五月分	昭和十四年四月十八日領収
六月分	昭和十四年四月二十五日領収
七月分	昭和十四年五月二日領収
八月分	昭和十四年五月九日領収

保健料領収帳

角川村保健組合

九月分	昭和二十一年九月三十日	五
十月分	昭和二十一年十月三十一日	五
十一月分	昭和二十一年十一月三十日	五
十二月分	昭和二十一年十二月三十一日	五
一月份	昭和二十二年一月三十一日	五
二月份	昭和二十二年二月二十九日	五
三月份	昭和二十二年三月二十九日	五

被保健者	早坂留七	一金五拾五銭	一ヶ月保健料
四月份	昭和二十一年四月十二日	五	拾五銭
五月份	昭和二十一年五月二十八日	五	拾五銭
六月份	昭和二十一年六月三十日	五	拾五銭
七月份	昭和二十一年七月二十九日	五	拾五銭
八月份	昭和二十一年八月三十日	五	拾五銭

注意

一 本書を以つて毎月の保険料納付通知書に換へるものとす

二 保険料は毎月二十五日まで各部落徴収員へ納付せらるべし

三 本書は療養を受ける都度組合へ提示すること

四 保険料を三ヶ月以上滞納したるときは保険給付を爲さざることあるべし

五 本書は後日まで大切に保存し置くこと

昭和十八年度

保険料領収帳

角川村國民健康保険組合